

令和2年度第1回 尼崎市生涯学習審議会 会議録要旨

日時	令和2年6月23日（火）午後6時から午後8時まで
場所	Zoomによるオンライン開催
出席委員	渥美委員、江田委員、大槻委員、鎌田委員、田井委員、中平委員、久委員、松村委員（2名欠席）

■議事内容

1 開会にあたって

ア チェックイン（委員の近況報告）

イ 異動職員紹介

ウ 傍聴者の確認

オンライン会議を録画の上、後日希望者への動画公開を前提として傍聴なし

エ 会議録署名委員について

五十音順に中平委員と久委員を指名

2 評価指標等の設定について（審議）

生涯、学習！推進課から資料1「令和2年度第1回生涯学習審議会の進め方【令和元年度第3回延期分】」及び資料2「生涯学習の指標等の整理」について説明を行った。説明内容に対する全委員での質疑を経て、委員が3つのグループ(テーブル)に分かれ、小人数で議論した。その後、全体として、各テーブルで出た意見を共有した。

【全体での質疑】

○委員

目的や評価の仕組みは、「生涯、学習！推進課」が作成したのか。地域課とのディスカッション、地域課からのフィードバックがあったのか。

◆生涯、学習！推進課長（事務局）

「生涯、学習！推進課」内で議論の上、原案を作成し、地域課が内容を確認している。

○委員

経験則では、納得感というのか、地域課の皆さんの現場での肌感覚のようなことがポイントになるのではないかと思う。実際の現場での取組から見えてくるものがあるのだろうと思う。具体的につくってしまうよりも、何らかの形でフィードバックとして、事業や取組の報告をしてくださった各地域課の声を聞きながらディスカッションができればと思

う。現時点で、すぐにそれをするのは難しいのかもしれないが、所感として共有したい。

◆生涯、学習！推進課長（事務局）

これまでが十分とは言えない面もあるので、使いながら考えることも必要であり、議論は続けていきたい。これまではアンケート一つとっても、簡単に済ませているなど十分ではない面もあったので、取り方から内容についても検討が必要だと考えている。

【3テーブルでの「目的」に関する議論(10分)を経て全体共有】

○委員（テーブル代表）

旧公民館で実施していた5つの事業の柱を基に、今回4つの目的をつくったということ、それが学びと活動の循環につながるようにするとの説明だったが、いかに地域課職員の声拾い、目的としてつくっていくかが重要である。というのも、地域課と一体感を持って進める方が、達成に向けて動いていきやすい。つくっていくプロセスが大切だと意見が出た。また、目的をどれくらいのペースで更新していくのかということについて、テーブル内では、3年くらいで変化を見たいとのことだった。これに対しても、地区によって取組が違うので、それらの要素を加えたりするといった検討が必要だとの意見、目的が地域課の管理職のみならず、担当職員にもピンとくる言語になっているかも重要だといった意見も出た。

○委員（テーブル代表）

旧公民館では、例えば、不登校教室のサテライトのように、学校に行けない子どもが通うセーフティネットとしての機能も担っており、それは今後も引き続き必要だとの意見が出た。3つ目の柱が、「学びによるセーフティネット」とあり、学びによりセーフティネットをつくり上げていこうという意味かと思うが、学びそのもののセーフティネット、学びの機会を持ちえない方へのセーフティネットをきちんとやっていくことも社会教育の機能であると意見が出た。地域自治だけでなく、社会教育の機能をきちんと評価するためには、学びのセーフティネットという切り口が必要だが、目的の内容を差別化できるような言葉づかいは検討して欲しい。

○委員（テーブル代表）

現在実施している事業が今回の目的のどれに当たるのかの分類は難しいものがある、目的の決め方が分かりにくいのではないかという意見が出た。例えば、家庭・地域や子育てについての学びがどこに入るか、セーフティネットとはイメージが違うので分かりにくい。また、目的の5番目として、「実践的な学びをする」を加えてもいいのではないかとの意見も出た。また、目的によって様々な事業があつてよいかと思うが、事業の例が出ていると、例があることで思い込んで偏ってしまう可能性もある。多様なテーマでの学び、多様な学び方での学びといったことも入れてもらおうと幅が出てよいと思う。

◆生涯、学習！推進課長（事務局）

今回、目的としては大きめに取りたいとの考えから、ご指摘の学校に行けない子どものセーフティネットについては、生活に困らないという観点から、3つ目の「学びによるセーフティネット」の中で捉えたいと思う。ただ、その表現ぶりについては、調整したいと思っている。それから、現在実施している事業がどこにあたるのか、一方で、例を書きすぎることによって限定的に捉えてしまうのではという意見については、庁内でもそういった議論はあった。わかりやすく、また、短文で伝わりやすい表現などで整理・工夫をしたい。また、「実践的な学び」の追加についても検討したい。

○委員

「学びによるセーフティネット」に「学びのセーフティネット」を入れてしまうと観点がぼやけてしまうのではないかと。学びを通じたセーフティネットは、市民自治、地域自治を学習によって促して行って行動自体は市民が主体的にしていくプロセスだが、学びのセーフティネットは社会教育の機能、学びの保障という行政の役割として、プロセスも内容も異なるので再考いただきたい。

◆生涯、学習！推進課長（事務局）

ご意見を踏まえて、対応していく。

○委員

そうすると、この内容については、今の枠の中の表現の工夫というよりは、今の趣旨が伝わるように修正していくことが必要だと感じた。大変重要で根幹に関わる意見だった。

○委員

地域ごとの特性を表現できるよう、全市一体のものと地域ごとの個別性を仕組みとしてつくってもよいのではないかと。また、目的のスパンの問題が指摘されていたが、長期的なもの、例えば1年などで柔軟に変えていけるものを分けるとことも考えられる。一つに決めてしまうと、見直ししにくいということにもなりかねない。手間が増えてしまうので、適宜取捨選択してもらってもよいと思うが、階層的にすることも考えられると議論を聞きながら感じた。

○委員

図表をうまく変えるとその辺りのことが表現できそうな気はする。例えば、各地域独特のものを入れてみる、期限を入れてみる、重点的なものを変えてみるなど、デザインが上手な方なら、うまく表現してくれそうな内容だと感じた。

○委員

目的の枠の中に入っている文言と、その説明に当たる文章が重要だと思う。例を入れるのではなく、理解等がぶれないように目的や説明をしっかりと書いておくことが必要だと思う。その上で、どんな事業を実施するかは、地域課や市民の発言などで多様化したり、深まったりすると思う。

○委員

追加でもいろいろとご意見があった。事務局の方で対応をお願いする。

【3テーブルでの「評価指標」に関する議論(10分)を経て全体共有】

○委員 (テーブル代表)

誰が評価をしていくかということに面白さがあるということで、若い職員がアンケートや調査をしていく中で必然的に地域とコミュニケーション、コミュニティをつくっていきける可能性がでてくるのではないかと。また、定量的な評価も大事だが、事例紹介、つまり事例をもって評価していくという手法もあるのではないかと意見が出た。また、読み物や成果物を出していくということ、事例ということについては、評価までは難しいかもしれないが、好事例だけでなく失敗例の共有も大事ではないか、といった意見もあった。6地区で何かと比較して評価するというだけでなく、例えば、地域ごとに住みたい度合いとリンクした評価の仕方を考えることはできないかという意見、定量で評価をしていく時に、どこに基準をおくのかに難しさがある、評価をする範囲は生涯学習プラザ等の事業・施設の中だけにとどまらず、地域で何が起きているか、どのような影響が及んでいるということも評価する必要があるのではないかと意見が出た。

○委員 (テーブル代表)

指標の成果を数字で捉えるのはどうなのだろうとの意見が出た。また、資料左側の例で子ども食堂のことが書かれているが、すでに地域で取り組まれている団体もあり、それを評価の中で、行政がサポートして取組を進めることができる数にとらえることにしてしまうと、活動している方が行政に取り込まれたと感じてしまうのではないかと意見が出た。学習の成果としての地域活動ではなく、地域活動は自発的に回っていくことが大事であり、それを数で捉えることはどうなのか。また、人権・平和に関しては地域総合センターが中心になっているので、うまく連携をしながら、地域課はマネジメントをする役割を担う必要があるのではないかと、またその場合は指標のあり方が変わってくるので、検討が必要ではないかという意見が出た。

○委員 (テーブル代表)

アンケートが難しいのではないかと意見で、特に人数については同じ人が来ていることが前提となってしまうので、新しい人に来てもらうことや新しい参加者が何を学びたいかを調査しないといけないということ、アンケートではない方法、アンケートの中身や取り方を少し考えないと指標にならないのではないかと意見が出ていた。事業の目的があり、何をやるかということを決めた時に、例えば企業だと売上目標があってそれを達成したかどうかの評価になるのが一つと、広告をうつとか、誰かに合うなど、どういう行動をする予定ということがあって、行動目標が全てできたかどうかということも指標になるのではないかと。事例紹介がやはりよいのではないかと意見も出ていた。

▲武庫地域課長

一点、補足すると、目的が現状、仮に4つ設定されており、複数の目的にポイントを置

く事業もありうるが、その場合に出口の指標をどうしたらよいか、アンケートの取り方を工夫しないといけないし、答えを誘導しないとしないといけないという意見が出ていた。

◆生涯、学習！推進課長（事務局）

アンケートを取る過程、若い職員が取ることによって地域と関係性ができるのではないかと、成果物を地域に配布してはどうかということ、数だけを捉えるのではなく好事例や失敗事例を出すことなど、今回ご提示したたたき台を考える過程で出てこなかったご意見をいただいたので、改めて再考したい。

3 効果的な事業や取組について（意見交換）

3グループ（テーブル）に分かれて「効果的な事業や取組」について話し合い、各テーブルの代表者からの発言等があった。

○委員

限られた時間の中で、深いテーマを議論しなければならないというのは大変だという気もするが、ぜひ、今後、対面で開催することができるようになれば時間延長も含めて議論していきたいと思う。それぞれのテーブルでの議論を、時間は短めにはなるが共有してほしい。

○委員（テーブル代表）

中央地区では、新型コロナウイルス感染症の関係で地域の方々に会えないという状況で、逆に連協会長にヒアリングをしたところ、会長としても地域でどんな団体が活動をしているのかよく分からないとのことだったので、それをきっかけとして地域発の協議体のようなものをつくり、それぞれの団体がどのようなことをやっているかについて情報交換してはどうかということが動き出しているとのことだった。しかし、それを継続していくことは難しいので、どうしたらよいか議論になった。また、会えないということから、若手とベテラン職員のチームで顔の売り込みも兼ねて、（地域課として取り組んでいる内容を記載した）似顔絵付チラシをポスティングしているとのこと、これが今後、どう動いてくるかが面白さだという話が出ていた。いずれにしても、地域発で何か動きをつくろうという地道な努力をされている姿が現場からはあった。

そして、我々からは、現場で（例えば、話を聞きながら、）お茶を何杯飲んでくるかが勝負だという考え方もあるという話をすると、新型コロナウイルス感染症が落ち着き、何から始めているのか、誰が動き始めているのかなどを調べにいくということが動き出すきっかけとしてちょうど良い感じになっているということだった。その際、評価のことも念頭に置いておくと、地域のお困りごと、地域におけるストーリーが頭に入ってくるのではないかと。100歳体操を訪問した若手職員は、体操の後、時間が来たから帰るというのではなく、お茶でも飲んで（一緒に話して）くるような指導もしているとのことだった。そういうとこ

ろから、地域の困りごとが分かるようになり、かつ、評価につながるストーリーができるのであれば、なおよいのではないかということだった。

○委員（テーブル代表）

大庄地区では団体同士のつながりづくりがなかなか難しく、苦勞しているとのことで、ゆっくりとそれに取り組んでいるとのことだった。例えば、連協会長に話を聞くと、自分たちが活動したいと考える場面等についての意見を聞くことがあったようで、団体同士の活動のきっかけづくりにも取り組んでいくということだった。立花地区は、以前この審議会での報告にもあったが、団体同士をいかにつないでいくか、行政主体で行う行事をいかに減らすかをテーマの一つとして持っているとのことだった。それを踏まえ、我々からは、市民による地域づくりが素晴らしいということで、それが最終目標なので、そのための地域のマンパワーをコーディネートするのが地域課職員の腕の見せ所だという意見があった。

○委員（補足の意見）

進行役に徹していたので、自分の意見を述べる時間が無くなってしまったので補足で意見を言わせてもらおうと、市民をタイプ別に整理して、それぞれの方が、次のステップや、ほかのところと連携していけるような道筋のようなものをストーリー化してはどうかと考えている。尼崎市は社協を中心とした地域活動があると思うが、その担い手が例えば、第1のタイプだと思う。それから、我々のテーブルに関連して、大庄で言うと、“元気むら”に集まっている人たちや、立花でいうとNPOプラザに集まっている人たちのような市民活動の担い手がまた一つのタイプとしてあると思う。さらに、生涯学習ということで言うと、学習で閉じてしまい、活動にまで進めていない人たちが3つめのタイプ、また他に、まだ学習のスタートが切れていない方もいるように、いろいろなタイプがあると思う。それぞれのターゲットに対して、さらに有機的につながることができるかや、次のステップに行けるかを戦略的に持つと頭の中が整理できるのではないかと思う。

○委員（テーブル代表）

園田地区は去年からブログをしているが、新型コロナ感染症で地域に出られず、ブログの記事の内容がなくなってしまい、フェイスブックなら双方向にもなるだろうということで、フェイスブックを始めたところ、思った以上に地域から反応や宣伝があり、地域で何かしたい人がいっぱいいることを改めて感じたとのことだった。武庫地区は生涯学習プラザがどんなことをしている施設なのかをまだご存じない方々にチラシをポスティングしようというアイデアが出ていた。委員からは、子どものことなどで困ったときには小学校区担当の地域課職員につなげると動いてもらえるので、困ったときに話しかける人として定着してきているのではないかという話があった。一方、私自身が活動している地域では、まだそこまでは至っていないという印象はある。全体を通じて感じたことは、ポスティングだけではなく、現在の状況下で、時間があるのであれば、地域の人に、してほしい事業はないか、学びたいことはあるか、困ったことはないかなどの

聞き取りを電話でもよいし、Zoom でもいいのでできることからやってみたらいいということがあった。また、まちの人と顔を合わせるといっても、Zoom を使ってみるのもよいと思った。また、まちの人が活性化している状態をサポートとして支えるというイメージを持つ方が事業に多様性が出るだろうし、地域課が熱くやるほど市民と離れてしまうかもしれない。市民がやりたいことを掘り起こすことを中心とした方がもっと活性化していくのではないかと思った。

◆生涯、学習！推進課長（事務局）

市民を4つのパターンで捉えて戦略的に取り組むこと、市民の活動をサポーターとして捉えていくことなどを考え方に入れていければと感じた。当課では地域課の職員の研修を担当しており、職員がどんなことができたらいいかを自分たちで考えながら進めているが、指標の項目を伝えておくだけでも行動が変わるんじゃないかと思うので、研修で共有したい。

○委員

今日の議論すべき事項は、以上だが、最後まで市長が参加して議論を聞いてくださっていたので、最後に一言いただいて終了したいと思う。

◆市長

今回も大変活発な議論をいただき、私自身、刺激を受け、大変うれしく思っている。今日は、（Zoomでの開催ということで、）議論を多くの職員が共有させてもらっており、それが財産だと思う。途中でも話題が出たが、地域課の職員は、もっと地域に入って汗をかけと言われたり、逆にやりすぎるなど言われたり、毎日どうしたらよいかと悩みながら業務に当たっている。そのような中、地域には様々な方がおられ、やり方も一つではない、正解も一つではないという話も出ていたし、地域による動きというものを盛り上げていくということが大事だということが大きなポイントだったと思う。今回は指標が一つのテーマだったが、地域振興センターや行政のスタッフがどんな機能を果たしているかというチェック・振り返りと、地域が目標に向かって進めているかという振り返りとは分けた方がよい、両方が必要だと全体を通じて感じた。大事なポイントがたくさん出たので、それを受けて宿題がたくさんにはなったが、再度練りこんだもので議論をお願いしたい。

○委員

以降の日程や今後の進め方等については、先ほど、市長からもあったが、事務局から改めて調整させていただくと聞いているので、よろしく願います。

閉会

以上